

外国人留学生の就職促進について（外国人留学生の就職に関する課題 等）

文部科学省高等教育局学生・留学生課 課長補佐 成相 圭二

ただ今ご紹介いただきました、文部科学省学生・留学生課の成相と申します。平素より文部科学行政にご理解、ご指導を賜りまして、厚く御礼申し上げます。私からは外国人留学生の就職促進に関して、現在の政策動向と文部科学省で行っている事業について、少しご説明したいと思います。

まず、『外国人留学生の就職支援に関する閣議決定等』という資料が1ページにございます。これは昨年決定した『日本再興戦略』改訂2016において、外国人留学生の日本国内での就職率を現状の3割から5割に向上させることを目指し、留学生に対する日本語教育、中長期インターンシップ、キャリア教育等を含めた特別プログラムを拡大、付加、設置するための推進方策を速やかに策定するという内容です。実は『日本再興戦略』が最初に策定されたのが平成25年なのですが、そこで留学生30万人計画等々について閣議決定され、留学生の日本国内への呼び込みということが一つの方向性としてございました。その中で出口としての、外国人留学生の活躍の場をどうしていくかという話で、この『日本再興戦略』が改訂されるたびに留学生の就職に向けた取り組みというものが盛り込まれてきたところでございます。

外国人留学生の就職の現状といたしましては、次のスライドの法務省の統計をご覧くださいと、在留資格の切り替え数は平成22年から毎年増加してきているという状況にございます。一方で大学の学部・大学院においての外国人留学生の卒業・修了者の内の国内就職の推移という統計がありまして、この水色の部分はその年度の修了者数、赤い方がその内の国内就職者数でございます。平成26年度のデータを以て先ほどの3割から5割という話が出ておりましたけれど、平成27年度では35.2パーセントという状況で、着実に進捗しているというところでございます。

ただ、一方で5割というのはかなりハードルが高いところでございまして、留学生の就職に関しての課題というのは現場の方々がもう既にご承知だとは思いますが、まず左側の『外国人留学生の就職及び定着状況に関する調査結果』をご覧ください。上の段が留学生に聞いたアンケートで、下の段が企業側に聞いたアンケートとなっておりますが、留学生から見ると、まず求人自体が少ない、その次に就職活動の仕組みが分からない、それから日本語による適性試験や能力試験が難しいという話があります。また、別の調査の中では留学生用の就職情報の充実ですとか、在留資格の変更手続き等について難しい部分があるという調査結果が出ております。一方で企業から見ますと、やはり日本語能力や、日本企業における働き方の理解が不十分だという意見があります。これらの表で、青い枠組みは企業の方で努力できる、また、赤い枠組みは大学の方で努力できるのではないかと

ような分析をしております。そこで、今年度からですが、文部科学省では、先ほどの『日本再興戦略改訂 2016』の中でも触れられていた日本語教育と中長期インターンシップ、それからキャリア教育を含めた特別プログラムを、大学が産学官連携の下で開設して進める事業を開始したところでございます。こちらについては資料の 6 ページにございますけれど、全国で 12 拠点を採択したところでございます。今後この取り組みの成果を広く還元していくって、全国的な留学生の就職促進を進めていきたいと考えておりますので、引き続きご注視いただければと考えております。

引き続き外国人留学生の就職促進に向けた取り組みへのご理解とご支援をお願いしたいということで、私の説明とさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。